

歌の周辺

昭和57年の作。上句は「無名の」を引き出すために創作した有意の序詞で、三句目「大葉子の」は「大葉子のやうな」の意である。

私の母は明治44年、愛媛県八幡浜市の自転車屋の娘として生まれ、高等小学校を卒業後、市内の電話局に勤め、交換手として働いた。やがて結婚し、三人の子を儲けたが、第一子は夭折し、残る一男一女を育てながら専業主婦として生きた。晩年は肝硬変を患い、闘病生活を送った。そして昭和60年に七十四歳で亡くなった。この歌は、亡くなる三年前に、遠く病む母を思つて詠んだ一首である。

(高野公彦)



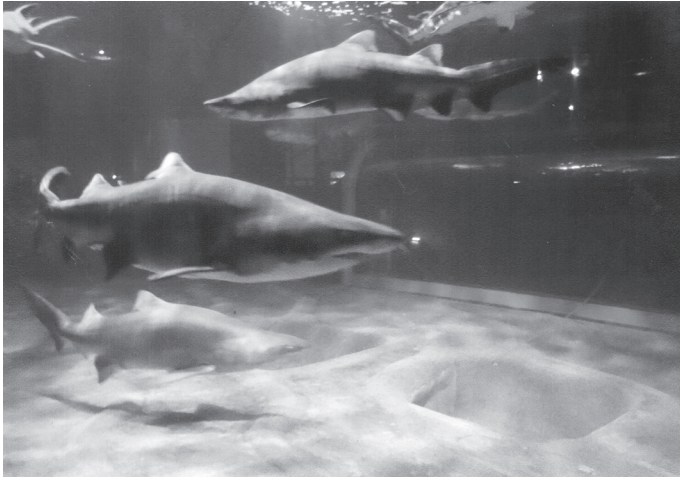
(写真・木畑紀子)

高野公彦うた紀行・38

遍路路へんろぢの路傍に生ふる大葉子の無名の
生を生きませり母は

— 『雨月』

【鑑賞】「無名の生」に寂しい感じは抱かない。遍路路の大葉子は神仏と共にあり遍路路を歩く人に踏まれて踏まれてその地に根づく。この歌を何度も読めば神仏も人間も植物も同等であるという気がする。「死」と「終わり」は同じではないと思う。しかし大切な人の命に終わりが近づいているときはどうだろう。辛くて耐え難い気持ちを遍路路の大葉子が静めてくれるのかもしれない。(康 哲虎)



ふるさとコレクション——209

鮫の飼育種類，日本一の水族館（茨城県大洗町）

太平洋に面するわが町の北端に，鮫をシンボルマークとする「アクアワールド茨城県大洗水族館」がある。大小60の水槽（水量約4千トン）に大洗沖の身近な魚介類から世界中の海や川の生物まで，約580種6万8千点を展示するが，中でも鮫は，飼育種類60種（展示49種）と国内最多を誇っている。

写真は水族館3階，〈サメの海1〉での一枚。上方の鮫，また，中央を右方向に向かう3メートル大の鮫は絶滅危惧種のシロワニ（ネズミザメ目シロワニ科）だ。目の前をゆったりと巡ってゆく姿はなかなかの迫力である。下方の2メートル大の一頭，これは国内で初めて繁殖に成功した，令和3年6月17日生まれのシロワニのメス。この水槽には他に，クロヘリメジロザメ，レモンザメ，ナースシャークが棲む。スタッフは日々，鮫の個体それぞれの餌（鱒や烏賊）の摂取量を記録し，健康管理を図っているという。

「サメがすごい。けどサメだけじゃない。」（リーフレットのコピー）からだろうか，年間入館者百万人を超える人気である。

（写真・解説：金子智佐代）